

I

《解答》

- (1) うつとうしい (2) ゆきづまる (3) おおよそ

《解説》

- (1) 「ウットーシー」は、漢字で書けば「鬱陶しい」で、「陶」のオ列長音の部分の仮名づかいは、一般的な「とう」でよい。

- (2) 「ユキズマル」は、「ユキ」+「ツマル」の複合語なので、「ゆきづまる」となる。

- (3) 「オーヨソ」で、「オー」のオ列長音は例外的な「おお」と書くものなので、「おおよそ」となる。

II

《解答》

- (1) 短い (2) 顧みる (3) 便り (4) 話し

《解説》

- (1) 「ミジカイ」は形容詞で「ミジカク」「ミジカカクタ」「ミジカイ」「ミジカケレバ」などと活用するので、語幹は「ミジカ」である。よって、活用部分は「イ」なので「い」を送る。

- (2) 「カエリミル」は上一段活用の動詞なので、「生きる」や「落ちる」

と同様に、活用部分の「みる」を送ることになる。つまり「顧みる」となる。

- (3) 「タヨリ」は名詞なので、普通なら送り仮名は不要である。しかし、「便」では「ビン」や「ベン」との区別が紛らわしいので、「便り」と「り」を送る。

- (4) 「ハナシ」は名詞の場合には送り仮名は送らず、動詞の場合は「お話し」と「し」を送る。この問題では「お〇〇します」という敬語の形で、〇〇には動詞が入る。だから「お話し」が正しい。もし、問題が「おハナシをします」と、「ハナシ」の後に「を」があれば、「を」の前に来るのは名詞なので、「話」と送り仮名はいらなくなる。

III

《解答》

- (1) 確立 (2) 明文 (3) 平衡
(4) 治る (5) 務める (6) 表す

《解説》

- (1) この場合の「カクリツ」の意味は、方法を「打ち立てる」ということなので「確立」である。同音語の「確率」は、「起こる可能性」や「発生する比率」のこと。

- (2) 「メイブン化」とは「文書にしてはつきり書き表すこと」であり、「明文化」と書く。同音語の「名文」は「すぐれた文章」、「名分」は「身

分、立場に応じた守るべき本分」のこと。

- (3) 「ヘイコウを保つ」とは「バランスをとる」こと。よって「平衡」が正解。同音語の「平行」は「交わらない直線の関係」、「並行」は「二つのことがならび行われること」の意。

- (4) この「ナオル」は「治療」のことなので「治る」がふさわしい。

- (5) 「議長をツトメル」のは、任務として行うので「務める」がよい。

- (6) 「気持ちのアラワス」は、「気持ちを表面に出す」ことなので「表す」が適している。ただし、「気持ちのアラワレル」なら「出現」という意味で「現れる」とするのがよい。

IV

《解答》

先日、校内バレーボール大会が行われた。私は、クラスの代表チーム

の一員として試合に望んだ。三年生なので最後のチャンスであり、絶対

に優勝するぞという意気込みであった。まず、第一戦は危なくなく勝ち、

第二戦も逆転勝ちで勝利を収めた。しかし、次の準決勝では強豪チーム

と戦かうことになり、必死のねばりもむなしく破れてしまった。

大会前に、わずかの暇を見つけてわ練習したのだが、みんなの都合が

最小限

合わず最少限の練習しかできなかった。今になって、もっと練習すればよかったと悔んでいる。

悔や

《解説》

仮名づかいでは、「まず」は本則通りである。「見つけては」の「は」は、助詞だが、うっかりすると見落とすので注意が必要。

送り仮名では、「戦う」は活用語尾を送るもの。「悔やんで」は「悔いる」との対応を考えて「や」から送る。

漢字では、「望む」は「希望する」ことだから、「試合に望む」は合わない。「向かい合う」という意味の「臨む」がふさわしい。「ゼツタイに」という副詞の場合は「絶対に」で、「絶体」は「絶体絶命」の場合だけ。「破れる」は、「こわれる」意なので、「負ける」という意味の場合は「敗れる」とする。「最少」と「最小」の違いは、漢字の意味どおり「少なさ」か「小ささ」である。ここでは「〇〇限」と、限度の小さい程度を意味するので「最小限」となる。

◎評価について

I～Ⅲは各問題4点、Ⅳの問題は訂正が正しいもの一つにつき6点で採点されたい。Ⅳは誤りを見つけ出し、それを正しく訂正する必要があるて難しい。その結果、70点あれば、学習の効果があったと考えてよい。

I

《解答》

- (1) 改良 (2) 理由 (3) 想像
(4) こらえた (5) かすかな (6) さえぎつて

《解説》

(1) 問題では文脈から「品種を良いものに改める」ことと考えられる。選択肢は、すべて「改める」という意味をもつ。そのうち、「改善」、「改良」が良いものに改めることだが、「品種」の場合に使うのは「改良」である。

(2) 「なぜ賛成するかというわけ」に該当するものを選ぶ。これに当てはまるのは「理由」である。「原因」は「わけ」がはっきりしない状況で使われるので不適切。「由来」は「物事の起こりや経過」という意味である。

(3) 主人公の気持ちがどういふものかを考えるので、「想像」が適切。「空想」はあり得ないようなことを思い描く場合、「予想」は前もって起こることを考えてみる場合に使う。

(4) 歯の痛みを我慢する場合の言い方である。「しのぶ」は「恥をしのぶ」など自分の気持ちを抑える場合に使い、歯の痛みには使わない。その点、「こらえる」「たえる」はどちらも使えるが、「こらえる」は「痛

みをこらえる」と言い、「たえる」は「痛みにたえる」と言う。この場合は「痛むのを」なので「こらえる」が正解となる。

(5) 音が小さく聞こえる場合の言い方である。ふさわしい表現は「かすかな」である。「わずかな」は、聞こえる音の場合にはふさわしくない。「ほのかな」は香りには使えるが、音には使わない。

(6) 他人が発言しているのを邪魔する場合の言い方である。「かぶせて」は正しそうだが、使うなら「発言にかぶせて」である。「発言をさえぎって」は相手の発言を止めることで、この場合にふさわしい。「発言をふさいで」とは言わない。

II

《解答》

- (1) ウ (2) イ (3) ア (4) ウ

《解説》

(1) 「混乱」は、「わけがわからなくなっていること」というのが中核の意味で、散らかっていることが中心ではない。「粗雑」は、粗っぽくていいかげんで、散らかっていることではない。その点「乱雑」は、散らかって整っていないことなので、正解。

(2) 「移行」は、状態が移っていくことであり、必ずしも時間とは限らない。「通過」は通り過ぎていくことで、これも時間とは限らない。「経過」は、時間が過ぎていくことなので正解となる。

(3) 「誘いかける」は、自分と一緒に何かしようという場合に使うので正解。「導き入れる」も「呼び込む」も、自分のほうに引き入れる場合で、一緒に行動しようということではないので正しくない。

(4) 選択肢は、いずれも失敗する点で共通している。「見落とす」は、見ていながら気づかないこと、「見失う」は、見ていたものがどこにいったかわからなくなること。「見損なう」は、見間違えるという意味で、人物評価を間違える場合にも使う。よって、「見損なう」が正解である。なお、「見損なう」には、見る機会をのがすという意味もある。

III

《解答》

- (1) ウ (2) ア (3) ウ (4) イ

《解説》

(1) 「焼け石に水」は、焼けて熱くなった石に水をかけても、水が蒸発して石は冷たくならないことで、やっても効果がない意味である。「鬼に金棒」は、元々強いものが何かを得て、さらに強くなること。「寝耳に水」は、突然の思いがけない出来事に驚くこと。

(2) 「鼻につく」は、何度も同じことが繰り返されて、いやになる意。「目に余る」は、程度がひどくて見ていられない意。「手に余る」は、自分の能力では処理できない状況になる意。

(3) 「雨降って地固まる」は、雨はいやがられるが、雨の後はかえって

土地が固く締まり、よい状態になることで、もめごとの後は、かえって物事がうまくいく意味である。「雨後のたけのこ」は、雨の後は、たけのこが続々と生えてくることから、同じようなものが次々と現れ出ること。「七転び八起き」は、七度転んで八度起き上がることから、何度失敗しても、あきらめずに立ち上がることを。

(4) 「さじを投げる」は、医者や、もう治療する方法がないと、薬を調合するためのさじを投げ出すことで、どうしようもないと、あきらめる意味である。「うしろを見せる」は、背中を見せることから、逃げる。また、弱みを見せること。「しつぽを出す」は、化けたキツネやタヌキがしつぽを出して正体を見破られることから、隠していたことやごまかしが露見すること。

IV

《解答》

- (1) 善 (2) 時 (3) 論 (4) 一髪 (5) 転直 (6) 引水

《解説》

(1) 「善は急げ」は、よいと思ったことは、ためらわずにすぐに行うべきだという意。

(2) 「時は金なり」は、時間はお金と同様に大切だから、無駄にしてはいけないという意。

(3) 「論より証拠」は、議論をするより証拠を出したほうが、物事ははっ

きりするという意。

- (4) 「危機一髪」は、髪の毛一本ほどの近くまで、危機が迫っていることから、もう少しで重大な危機に陥る瀬戸際のこと。「一髪」を「一発」と間違えないように注意。

- (5) 「急転直下」は、状況が急転して、すばやく解決や結末に向かうこと。

- (6) 「我田引水」は、自分の田んぼにだけ水を引き入れることから、自分の都合のいいように言ったり行動したりすること。

◎評価について

I～IVまで、各問題の配点は5点で採点されたい。

IとIIは、類義語に関するものである。単に言葉の意味を覚えるのではなく、使えるようになることが必要。そこで、自己採点のときにも、使い分けができるかという観点からチェックして、十分にできないと思われるものは、その語を使った用例を調べてほしい。用例は、国語辞典を使って調べるとよい。また、類義語辞典も役立つので、図書館などで調べてもらいたい。

IIIとIVは、ことわざ、四字熟語を含めた広義の慣用句の問題である。慣用句は知らないとうしろしようもないことがある。よって、できなかったものは、この機会にきちんと覚えるようにしてほしい。

I

《解答》

- (1) おいでになる (2) うかがい (3) お見えになり
(4) ご応募ください (5) 拝読いたし (6) おっしゃった

《解説》

- (1) 「来る」という動作をどのように言うのがよいかという問題である。「来る」人は、自分ではなく相手である。相手の動作だから尊敬語にすべきである。よって、尊敬語の「おいでになる」が正解。「参られる」は、謙譲語「参る」に尊敬の助動詞「れる」がついた不自然な語。
- (2) 「行く」という動作の問題である。この場合、「行く」のは「私」なので、謙譲語にする必要がある。よって、「うかがう」が正しい。「いらっしゃる」は尊敬語である。
- (3) お客様が「来た」という尊敬表現を選ぶ問題である。「お見えになる」は、厳密には「見える」という尊敬語と「お○○になる」という尊敬語の形式とが二重になっている。そのため、二重敬語とみなすことができる。しかし、現実によく使われていて、もはや敬語過剰と言えないとされている。よって、「お見えになり」が正解である。それに対して「お見えになられ」は「お見えになる」に尊敬の助動詞「れる」がついているので、こちらは敬語過剰で好ましくないのである。

- (4) 「応募する」ことを勧める表現である。「応募する」のは、「皆さま」

つまり相手なので、尊敬語にする必要がある。適切な尊敬語は「ご応募ください」である。「ご応募してください」は、「ご応募する」という謙譲語の形式が含まれているので正しくない。「ご応募されてください」も同じく「ご応募する」が含まれているので正しくない。

- (5) 手紙を「読む」ことをどのように言うかという問題である。読む人は自分である。したがって謙譲語にすべきで、「拝読いたし」が正解である。「お読みになり」は尊敬語で不正解。「拝読され」は謙譲語「拝読する」に尊敬の助動詞がついているので正しくない。

- (6) 先生が「発言した」ことをどのように言うかである。先生の動作なので当然尊敬語にすべきである。よって「おっしゃった」が正しい。「お話しされた」には「お話しする」という謙譲語が含まれているので正しくない。「申された」は「申す」が謙譲語なので、尊敬の助動詞「れる」をつけても、正しい尊敬語にはならない。

II

《解答》

先日は、急にお電話で質問なさいましたにもかかわらず、丁寧にお答えくださいまして、ありがとうございました。お礼の気持ちをこめ

お送りいたし
召し上がって
て、お菓子を別便で送られますので、皆さんでいただいでください。

《解説》

その動作が誰の動作なのかを確認することが大切である。電話で質問したのは、文脈から自分の動作とわかるので、謙譲語でなければならぬ。ところが、「質問なさい（ました）」は尊敬語なので、謙譲語の形式に訂正しなければならない。

次の、「答える」は相手の動作である。したがって尊敬語でなければならない。「お答えしてください」とあるが、尊敬語として正しくない。「お答えして」と謙譲語の要素が含まれているからである。そこで正しい尊敬語の形「お答えください」にすればよい。

お菓子を別便で送るのは自分の行為なので、謙譲語が正しい。ところが、「送られ（ます）」は尊敬語である。そこで、「お送りいたし（ます）」「お送りし（ます）」などとする。なお、「お送りいたし（ます）」のほうが「お送りし（ます）」よりも敬意が高い。

最後の「いただいでください」は、お菓子を食べてくださいという意味である。食べるのは、もちろん相手側なので、尊敬語でなければならない。「いただいて」は謙譲語なので、尊敬語の「召し上がって」にする。

Ⅲ

《解答》

- | | | |
|---------|----------|------------|
| (1) 売って | (2) 食べない | (3) 行く |
| (4) すごく | (5) 二千元を | (6) 合格すること |

《解説》

- (1) 受け身表現「売られて」になっているのが誤り。「ケーキを」なので、「売って」にすると正しくなる。
- (2) 「決して」という副詞の場合、後に打ち消し表現が呼応する。よって、「食べる」ではなく、「食べない」とすればよい。
- (3) 日本語では、未来のことは現在形を使って表現する。旅行は将来のことなので「行った」ではなく「行く」が正しい。
- (4) 「速い」は形容詞なので、「すごい」が「速かった」を修飾するときは、連用形でなければならない。よって、「すごい」の連用形の「すごく」に訂正する。

- (5) 「預かる」という動詞では、預かる対象につく助詞は「を」である。つまり、「〇〇を預かる」が正しい。

- (6) 「合格」は名詞なので、「資格試験に」という修飾語と合わない。「合格すること」と動詞を含んだ形にするとよい。

Ⅳ

《解答》

- (1) ゲームの勝因は、毎日、みんなそろって猛練習をした。
ことだ

(2) 昨日は、^{おかげ} 天気がよかったせいで、とても気持ちがよかった。

(3) 休日には、ビデオを見たりゲームを^{たりし}します。

(4) 台風が近づいている^{のに}、風もなくふしぎなほど静かだ。

《解説》

(1) 「ゲームの勝因は」という主語と「猛練習をした」という述語が対応していない。そこで、述語を「猛練習をしたことだ」とすればよい。

「猛練習をしたことにある」でもよい。

(2) 原因や理由を表すとき、「せいで」「おかげで」「ために」が使える。その場合、一般的に結果がよかったという判断を示すときには、「おかげで」が使われ、悪かったと思うときには「せいで」が使われる。「ために」は中立的な表現である。この場合は、「気持ちよかった」と言っているので、「おかげで」がよい。もちろん「ために」を使ってもよい。

なお、結果がよくないのに「おかげで」を使うと、たとえば、「あなたのおかげで失敗した」の場合のように、皮肉をこめた表現と受け取られるおそれが生じる。

(3) 並列表現の「〜タリ〜タリする」が崩れている。「ビデオを見る」と「ゲームをする」が並列関係なので、「ゲームをしたりします」にする。

(4) 「台風が近づいている」とことと「風もなくふしぎなほど静かだ」は、

常識では起こらない逆接の関係にある。ところが、両者をつないでいる「ので」は順接の接続助詞である。そこで、逆接の接続助詞「のに」にすればよい。「のに」のほか、「が」「けれど」「けれども」「にもかかわらず」などにしてもよい。

◎評価について

I～IVまで、各問題の配点を5点として採点されたい。合格の目安は70点である。

IとIIは、敬語に関する問題である。敬語の中心になるのは動作に関する形式である。そこで、まずすべきことは、その動作が誰の動作なのか、もつとあからさまに言えば、自分の動作なのか、相手の動作なのかを識別することである。自分の動作なら謙譲語に、相手の動作なら尊敬語にという考え方をとれば、ほぼ正解になろう。その意味で、問題を解くときに、誰の動作かを考えるようになっていれば、第一段階は合格したと言える。後は尊敬語と謙譲語の形式をマスターすればよい。

IIIとIVは、文法上の問題である。文法上の細かいことはわからなくても、そういう表現が自然か不自然かが区別できるようになればよい。間違った問題があれば、その部分の説明をきちんと読んで、再度チャレンジすればよい。

I

《解答》

(1) 旧暦の六月は梅雨の最中で雨が多いゆえに六月の異称は「みなづき」
。それなのに、

で「水無月」と書くその解釈としては、ミナヅキのミが「水」で、ナが助

ある。

詞の「の」にあたるという説が有力でありつまり、ミナヅキは「水

ある。だから、

の月」だというのであり結局、「水無月」と書くのは当て字という

ことになる。

←

旧暦の六月は梅雨の最中で雨が多い。それなのに、六月の異称は「みなづき」で「水無月」と書く。その解釈としては、ミナヅキのミが「水」で、ナが助詞の「の」にあたるという説が有力である。つまり、ミナヅキは「水の月」だというのである。だから、結局、「水無月」と書くのは当て字ということになる。

ジュンは、

。そして、

(2) インド料理店で本格的なインドカレーを初めて食べたジュンは、そ

た。それ

のおいしさに自分で作ってみようと思い立つ以来、様々なスパイス

を買ってきて、カレーを作って家族に食べさせているが家族からの
。評判は決して悪くない。

←

ジュンは、インド料理店で本格的なインドカレーを初めて食べた。

そして、そのおいしさに自分で作ってみようと思い立った。それ以来、
様々なスパイスを買ってきて、カレーを作って家族に食べさせている。
家族からの評判は決して悪くない。

《解説》

(1) 解答は、意味のまとまりごとに切るのが原則である。

① 多いのに↓多い。それなのに、

逆接の接続助詞「のに」でつながれているので、解答では逆接の接
続詞「それなのに」を加えた。逆接の接続助詞であれば、「しかし」「だ
が」「ところが」などでも、もちろんかまわない。

② 書く解釈↓書く。その解釈

この部分の前には書き方が述べられ、後には解釈が述べられている。
内容が違うので切るのがよい。ただし、切って読点を加えるだけでは
不自然になる。「解釈」の前に述べられている内容が「解釈」を修飾
しているの、「その解釈」のように指示語を加えると自然になる。「そ
の」の代わりに「この」でも文意は通じる。

③ であり、つまり↓である。つまり

「つまり」が使われているということは、その前までの部分を「つまり」以降で言い換えていると考えられる。こういうところでは、切るほうがわかりやすくなる。

④ であり、結局↓である。だから、結局

「結局」以降で、結論（雨が多いのに水無月と書く理由）を述べているので、切るのがよい。解答では、結論に導くところなので「だから」を入れているが、入れないで「である。結局」でもかまわない。

(2) 解答は、起こった事柄ごとに分けて切りたい。それによって、わかりやすい文章になる。

① インド料理店…食べたジュンは、↓ジュンは、インド料理店…食べた。

時間的に最初の事柄は、「ジュンが本格的なカレーを食べた」である。元の文章は、「ジュン」を修飾する形になっているが、中心になるもの（ここでは人物）は、最初に出したほうが読みやすくなる。そこで、「ジュン」を主語にして述べるのである。解答では、その後に「そして」を入れているが、なくても間違いではない。

② 思い立って以来、↓思い立った。それ以来、

次は、「カレーを自分で作ることを思い立った」なので、そこで切るとよい。ただ、切るだけでは、次の文が「以来」から始まって落ち着かない。そこで、「それ以来」と「それ」を補うとよい。

③ 食べさせているが、家族からの↓食べさせている。家族からの

最後は、「作って家族に食べさせたこと」と「家族の評判」とで、内容が異なっているので切るのがよい。つなぎ目に「…いるが」と接続助詞の「が」が使われているが、この「が」は逆接ではなく、単なる接続の「が」である。そのため、接続詞を補わなくてよい。

II

《解答》

映画では、荒野を歩いてきた旅人が、ふと立ち止まって足もとを見るというシーンがある。すると、懸命に生きている小さな虫がいるし、精いっぱい咲いている花もある。そんな大自然の仲間たちが旅人をはげますのである。

《解説》

訂正すべきポイントは、次の箇所である。

① 映画じゃあ↓映画では

② 見るってシーン↓見るというシーン

③ ちっちゃな虫↓小さな虫

④ 咲いてる花↓咲いている花

⑤ 自然、いや、大自然の↓大自然の

⑥ はげますんだよ↓はげますのである

「って」は「それって」「私って」「うれしって」のように何にでも

付けられるので注意したい。また、「咲いてる」は「：している」から「い」が落ちる形で、これもよく見かけられるものである。なお、「自然、いや、大自然の」は、最初に「自然」と言ったものを「大自然」と言い直しているの、書き言葉では、言い直したもののだけでよい。ただし、わざと言い直したことを示したいと考えるならば、「自然の、と言うよりも大自然のと言うべき仲間」などと訂正すればよい。これも正解である。

III

《解答》

推理小説の中心はなぞ解きにあります。^{ある}そのために、奇抜なトリックやアイデアの創意がこらされていますし、^{いるし}読者の心理を意識しまして、^{いる}細かい計算の上に構成されています。ですから、推理小説はおもしろいのであるのです。

←

推理小説の中心はなぞ解きにある。そのために、奇抜なトリックやアイデアの創意がこらされているし、読者の心理を意識して、細かい計算の上に構成されている。だから、推理小説はおもしろいのである。

《解説》

訂正すべきところは、次の箇所である。

- ① なぞ解きにあります↓なぞ解きにある
 - ② こらされていますし↓こらされているし
 - ③ 意識しまして↓意識して
 - ④ 構成されています↓構成されている
 - ⑤ ですから↓だから
 - ⑥ おもしろいのです↓おもしろいのである／おもしろいのだ
- 文末がかかわっている①④⑥は、当然気がつくと思われるが、文中に「ですます体」が使われている②③にも、訂正が必要である。また、⑤の「ですから」は「ですます体」では使えるが、「である体」では使えない。なお、⑥の「おもしろいのである。」は「おもしろいのだ。」としても正しい。

◎評価について

I については、(1)は4か所の訂正があり、1か所5点で20点とする。(2)は3か所であるが、①の「ジュン」を主語の形に訂正してあれば10点とする。残りは5点ずつで、計20点とする。(1)と(2)を合わせると40点になる。

II は、6か所の訂正箇所があり、1か所5点で30点とする。なお、答えは解答に示した通りでなくとも、書き言葉になっていればよい。そのつもりで評価されたい。

III は、やはり6か所の訂正箇所があり、1か所5点で30点とする。全体として70点を合格の目安とするといいたろう。

I

《解答》

ウ

《解説》

本文の内容は「寝耳に水」ということわざの由来である。ことわざの意味は「不意の出来事に驚くこと」で、なぜ、そのような意味を表すと考えられるかについて述べている。この文章で大事なことは、次の4点である。

①元来は、睡眠中に大水の音に驚くことだった。

②それが耳に水が入って驚くことに変わった。

③元来の解釈は正しくてもおもしろくない。

④新しい解釈がおもしろい。

要約をするにあたって大事なことの一つは、文章で筆者が述べている大事なことがきちんと残っていることである。つまり、この問題では、右の四つの内容が残っていることが必要である。

アは、①③④はあるが②がない。そのために、アだけでは意味が十分にはわからない。イは①はあるが、③と④に関しては勝手な解釈を加えている。それに対して、ウは、①から④までがそろっている。

II

《解答》

A 「小春」とは陰暦の10月のことで、太陽歴では11月から12月上旬にあたる。

B 英語にも、小春日和に対応する語として、インディアンサマーがある。

《解説》

要約のコツは、比較的不要な言葉を削るようにすることである。

空欄Aの部分に当たる本文は、

「小春」とは昔に使われていた陰暦の10月のことで、今使っている

太陽歴では11月から12月上旬にあたる。

である。ここで削っていいものに「昔に使われていた」がある。この部分は「陰暦」の説明なのでなくても意味は通じる。同様に、「今使っている」も「太陽暦」の説明なので削ることができる。

空欄Bの部分に当たる本文は、

英語にも、小春日和に対応する語として、同じような時期の暖かい日々を指す語にインディアンサマーがある。

である。「同じような時期の暖かい日々を指す語に」は「小春日和に対応する語として」と同じことなので削っても意味が通じる。

III

《解答》

- (1) イ
(2) ウ
(3) ア
(4) イ
(5) ウ

《解説》

空欄の前後の関係をとらえるのがポイントである。

(1) 空欄の前は、家族に「こんにちは」を言えないことで、空欄の後は、家族に「こんばんは」を言えないことである。両者は、「こんにちは」と「こんばんは」が違うだけで同様のことを述べている。つまり、並列の関係なので「また」が正解となる。

(2) 空欄の前は第一段落で、「こんにちは」「こんばんは」が家族に使えない」という内容であった。それに対して、空欄の後は「『こんにちは』『こんばんは』が使えないのは家族だけではない」と話が転換している。これに合うのはウ「ところで」である。ア「つまり」は言い換え、イ「それで」は順接の場合に使うのでどちらも合わない。

(3) 空欄の前は「『こんにちは』『こんばんは』が家族以外にも使えない」ということで、空欄の後に「親しい友人」が出てくる。これに合うのはア「たとえば」である。イ「だが」は逆接の関係の場合で、ウ「なぜなら」は理由を述べる場合なのでどちらも合わない。

(4) 空欄の前に「相手が親しければ親しいほど使にくい」とあって、空欄の後に「恋人には使わない」とある。順接の関係なので、イ「だから」が当てはまる。ア「さらに」は付け加える場合で、ウ「一方」は対立するものを持ち出す場合であり、どちらも当てはまらない。

(5) 空欄の後は、「こんにちは」「こんばんは」を親しい人に使えないことをまとめて述べている。よって、これに当てはまるのは、ウ「要

するに」である。ア「あるいは」は対比するものを持ち出す場合、イ「また」は付け加えて述べる場合なので不適切である。

IV

《解答》

- (1) ところで (2) 美しさと

《解説》

コスモスについて述べた文章である。最初に、コスモスの色や日本での評価など、コスモスの花について説明がされる。その後、コスモスという語の意味である「宇宙」や「世界」と、コスモスの花がなぜ結びついたかという話が展開される。そして、最後にコスモスと「コスメ」との関係について述べられている。つまり、「コスモスの花」「コスモス」という名の由来「コスメとの関係」の三つの部分に分けられる。よって、その区切れ目を探せばよい。

◎評価について

Iは選択問題で、正解なら10点とする。IIは、AとBの2か所で各20点である。ただし、解答と比較して十分でない答えなら、20点ではなく半分の10点とする。不十分というのは、省いてよい修飾語句が部分的に残っている場合などである。IIIは1か所6点で30点とする。IVは各15点とする。

全体として70点なら合格と言えよう。

《解答例1》

れ		あ	で	し	し		ス	合	で	と	追	ら	つ	も	絶	番	わ	
ば	勝	る	あ	か	く	ス	を	に	も	を	い	に	た	っ	対	の	が	私
悔	負	と	れ	し	や	ポ	や	も	わ	目	か	な	め	て	に	目	部	は
し	に	思	ば	、	れ	ー	っ	勝	か	標	け	り	に	、	勝	標	で	テ
い	こ	う	、	私	ば	ッ	て	て	る	に	る	な	と	練	っ	に	は	ニ
。	だ	。	勝	は	い	は	い	る	ほ	練	こ	が	思	習	の	な	、	ス
し	わ		負	、	い	勝	て	よ	ど	習	と	ら	う	に	だ	っ	試	部
か	っ		に	ス	と	負	よ	う	に	す	が	も	か	は	と	て	合	に
し	て		こ	ポ	い	に	か	に	上	る	で	懸	ら	げ	い	い	に	所
、	い		だ	ー	う	こ	っ	な	達	こ	き	命	こ	ん	う	る	勝	属
そ	る		わ	ッ	意	だ	た	っ	し	と	る	に	そ	で	強	。	っ	し
の	と		る	を	見	わ	と	た	た	で	。	ボ	、	い	い	み	こ	て
悔	、		必	す	も	ら	思	。	し	、	勝	ー	ふ	る	思	ん	と	い
し	負		要	る	あ	ず	っ	テ	、	自	っ	ル	ら	。	い	な	が	る
さ	け		が	の	る	楽	た	ニ	試	分	こ	を	ふ	勝	を	が	一	。

《解答例2》

手	合	気	っ	た	ど	は	ム	を	
た	が	持	か	。	白	、	を	見	先
ち	終	ち	ど	私	熱	両	応	に	日
は	了	に	ち	は	し	チ	援	行	、
、	し	な	ら	選	、	ー	し	っ	友
互	た	っ	に	手	シ	ム	て	た	人
い	と	て	も	た	ー	か	い	。	が
に	き	い	負	ち	ソ	ら	た	最	出
相	、	た	け	の	ー	負	。	初	場
手	両	。	て	真	ゲ	傷	し	は	す
チ	チ	そ	ほ	剣	ー	者	か	友	る
ー	ー	し	し	さ	ム	が	し	人	ラ
ム	ム	て	く	に	と	出	、	の	グ
と	の	、	な	、	な	る	試	チ	ビ
健	選	試	い	い	っ	ほ	合	ー	ー

						に	を	び	る	び	を
						も	す	が	よ	る	バ
						、	る	倍	う	。	ネ
						勝	の	増	に	す	に
						負	だ	す	な	る	す
						に	か	る	り	と	る
						こ	ら	。	、	、	こ
						だ	、	せ	ス	自	と
						わ	う	っ	ポ	分	で
						る	ま	か	ー	に	運
						べ	く	く	ッ	自	動
						き	な	ス	を	信	能
						で	る	ポ	す	が	力
						あ	た	ー	る	も	が
						る	め	ッ	喜	て	伸

I

《解答》

- (1) イ (2) ウ (3) ア

《解説》

(1) 性格を述べるときは、はっきりと一つに絞って述べるのがよい。アは「冷静」「行動的」「努力家」といろいろ述べられているために、どういう人物であるかのイメージが伝わらない。その点、イは明確である。ウは自分の性格ではなく、好みを述べていることになり、不適切である。

(2) 経験を述べるときのポイントは、具体的であること。アでは、三つの文のうち、第一文と第三文は考えが述べられ、経験は第二文だけである。しかも、第二文には具体的な内容がない。イは、その点、悪くはない。チームがバラバラになりかけたとき、「メンバーで深夜まで議論し、納得のいく結果が得られた」と書かれている。ただ、書き手がどのように行動したかはあまり具体的ではない。それに対して、ウでは、書き手が「普段、発言しない人に考えをヒアリングし、その考えを議論する場を作った」と行動の内容が明確に述べられていて、より具体的である。よって、ウが最もよいと言える。

(3) 長所を示すエピソードを述べるときは、長所とエピソードがうまく関連していることが大切である。アでは、まじめな態度を具体的な事実を通して

述べている。さらに、自分のまじめさが評価されていることを「店長から意見を求められる」という事実で示している。これによって自慢にならずに表現できている。それに対して、イは、自慢しているようにとれるので印象が悪い。ウは、「まじめだ」という長所を示すエピソードが「課題の提出」と「アルバイト」の二つ書かれている。多いほうがいいと思われるかもしれないが、自己PRが書ける分量は限られるので、エピソードを多く入れようとすると、一つのエピソードの説明が簡略になり、具体的には書けなくなる。以上のことから、アがよい。

II

《解答》

- (1) ア (2) ウ (3) イ

《解説》

(1) 長所を述べるときは、具体例で説明することが大切である。アは、エピソードによって意志が強いという長所に説得力がある。イは、「思いやりすぎで決断できないことが私の欠点です」と欠点で終わっている。これではよくない。ここは、たとえば、友人に頼られる点を具体的な例によって説明するとよい。ウは、あれこれという述べて立っているために、イメージがわからない。そして、単なる自慢のように聞こえる。

(2) アは、「融通がきかない」「がんこ者」とマイナスイメージの強い表現のために、印象が悪い。せめて「柔軟性に乏しい」くらいにしたいところで

ある。イは、「短所はない」と言い切るのはダメである。短所のない人間なんていないのだから。ウは、「没頭すると周りが見えなくなる」という短所を挙げながら、他方で集中力という長所をアピールしている。また、最後に「注意している」と述べている点もよい。

(3) アは、上から人を見下したような発言になっている。そういう態度はよくない。イは、謙虚さと自信がうまくバランスがとれている。また、積極性を感じさせる印象があつてよい。ウも悪くはない。ただし、説明が簡略すぎることでやや積極性に欠ける点で、イに劣る。

III

《解答》

- (1) 先生・御社
- (2) 母・進学する
- (3) お客様・うかがい
- (4) 私・よろしい

《解説》

(1) 面接の場面であっても、担任には「先生」と言うのがよい。先生は相手企業側の人間ではないが、自分の側の人間でもなく、常に敬意を示すべき人と考えるのがよい。

「面接を受けている相手の会社のことは、敬意を示して「御社」と言う。

(2) 外の人に向かって自分の親のことを言うときは、「父」「母」と言うべきである。

「進学する」という行為にかかわる相手はいない。あえて言えば、「大学」

であるが、この場合、「進学する」相手が特定されないの、相手がいないのと同じである。よって、自分の行為であっても、謙譲語にする必要はないので、「進学する」でよい。

(3) 「お客様」がよい。理屈では、目の前に客はいないので、「客」と言っても文句を言う人はいないはずである。しかし、ビジネスの世界では「客」は大切にすべきものとされ、「お客様」と言うのが普通である。

インタビューで聞いたのだから、聞いたのは、面接を受けている会社の人からと考えられる。そして、「聞く」のは自分の行為なので、謙譲語の「うかがう」が正しい。

(4) 自分自身のことは、「私」と言うのがよい。その発音も、「わたし」より「わたくし」のほうが、フォーマルな印象を与えて好ましい。

「〇〇してもかまわないか」と許可を求める際は、「〇〇してもよろしいでしょうか」と言う。「結構」は、「〇〇しても結構です」のように、許可を与える側が使う言葉である。

◎評価について

Iは自己PRの述べ方、IIは面接での答え方の問題で、いずれも各10点計30点で採点されたい。

IIIは面接時の敬意に関する表現の問題で、8か所、各5点である。

全体としては、70点を合格ラインとする。

I

《解答》

- (1) ウ (2) イ (3) イ (4) ウ (5) ア (6) ウ

《解説》

(1) 相手から日程を提案されたのに対して、それを受け入れるときの言い方である。ア「了解です」は意味としては間違いではないが、ややぞんざいな言い方である。ウ「承知いたしました」のほうが丁寧で敬意を示せる。特に、問題文の「ご提案いただきました」という敬語を使う相手に対しては、「了解です」では不十分である。イ「大丈夫です」は友達には使つてよいが、問題のような場面では不適切である。

(2) 発表会に参加を呼びかけるときの言い方である。このようなときによく使われるのが、イ「万障お繰り合わせの上」である。「万障」とは「さまざまな不都合」のことで、その「不都合を調整して」という意味になる。ア「できれば」は話し言葉風で、この文脈には向かない。また、熱心に参加を呼びかけるなら、「できれば」ではなく「是非に」のように積極的に呼びかける表現がふさわしい。ウ「差し支えがなければ」も意味としては正しいが、強く呼びかけているとは言えないので、やはりこの文脈では不適切である。

(3) この問題では、相手が企画書を受け取ることを示す言い方である。ア「お受け取り」は間違つてはいないが、問題の場面では使われない。使われる

のは、イ「ご査収」である。その意味は「よく調べて受け取ること」である。日常生活ではあまり使われないが、ビジネス社会ではよく使われる。ウ「ご拝受」の「拝受」は謙譲語なので、相手の行為に使うのは誤りとなる。

(4) 問題文では、「おいでくださいました」とあるので、山田部長は相手側の会社の人と考えられる。相手側の会社を言うときはウ「御社」を使う。ア「弊社」は自分の会社のことであり、「弊」にへりくだっている意味がある。イ「お宅」は改まったビジネスシーンでは使えない。

(5) 手紙の最後で使う言葉である。ア「末筆ながら」は「最後になってしまいました」という気持ちを表すので、これが正解。イ「最後ながら」は、意味は通じるが、このような言い方はしない。ウ「略儀ながら」は、礼儀が十分でないことを謝るときに使うものである。

(6) 問題文は、遠くにいるのでお悔やみにいけないことを述べている。そのことが「本心ではないけれど」という意味を表す言葉で、ウ「不本意ながら」が正解である。ア「仕方がないので」、イ「不満足ながら」は言葉不足で不適切である。

《解答例》

拝啓

時下、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は弊社の商品をご愛用いただきまして、まことにありがとうございます。

さて、弊社はおかげをもちまして創立30周年を迎えることになりました。このたび、それを記念しまして謝恩展示即売会を、下記の要領で開催いたします。弊社の自信ある品々をとりそろえましたので、必ずお喜びいただけるものと確信いたします。

ご多用とは存じますが、なにとぞご来場をたまわりますようご案内申し上げます。

敬具

記

日時 11月23日（祝）10時～16時

場所 本社ビル7階

以上

《解説》

創立三十周年記念の謝恩展示即売会の案内状である。問題として要求されているのは、標題に続く部分を書くことである。書くべき部分の構想表が示されているので、それに合わせて書けばよい。

挨拶は、「仲秋の候」といったものより「時下、ますます：」のような、季節と関係のないものが、こういう文書にはふさわしい。また、「平素は：」のような感謝の言葉も決まり文句なので、覚えておくとうよい。

上司の指示は、案内にかかわるので、案内の趣旨の部分に入れるとよ

い。

記書きにすることが要求されているので、日時と場所を簡条書きにすることと、「以上」を忘れないようにしたい。

◎評価について

Iは、6問あつて各5点で30点である。

IIは、次のリストをもとに採点するとよい。

1 形式はよいか。

(1) 頭語と結語の組み合わせ。〔10点〕

(2) 記書きの形式はよいか。〔10点〕

「記」「以上」があつて、簡条書きになっているか。

2 内容はよいか。

(3) 時候の挨拶・感謝の言葉は適切か。〔10点〕

「時下、：」のようなビジネスのものなら10点。

「〇〇の候」のような一般的のものなら5点。

(4) 案内の趣旨は適切か。〔20点〕

「創立30周年を記念した謝恩展示即売会を開催すること」と「自信のある品をとりそろえたから喜んでもらえること」の2つが書かれていれば20点。一方なら10点。

(5) 来場のお願いは適切か。〔10点〕

「来てほしい」という表現があれば10点。

3 表現と表記について。

(6) 文法的に不適切なものはないか。〔5点〕

誤りがなければ5点、2か所以内なら3点、3か所以上は0点。

(7) 表記の誤りはないか。〔5点〕

誤りがなければ5点、2か所以内なら3点、3か所以上は0点。

以上のⅠとⅡと合わせて、70点以上なら合格である。
